

直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和4年6月29日時点

開催日時	開催場所・形式	名称
7月7日（木） 13：30～17：00	日本学術会議講 堂（ハイブリッ ド開催）	学術フォーラム 「国難級災害を乗り越えるためのレジリエン ス確保のあり方」
7月7日（木） 15：00～17：00	オンライン開催	公開シンポジウム（オンラインシンポジウムシ リーズ） 「地球の未来を切り拓く—育種学の役割—」
7月8日（金） 13：00～16：00	オンライン開催	中部地区会議学術講演会 「環境教育・環境研究を通じた地域貢献」
7月23日（土） 10：00～16：50	オンライン開催	公開シンポジウム 「医工学シンポジウム2022」（我が国の医工学 —現在と未来—）
7月23日（土） 13：00～18：00	オンライン開催	公開シンポジウム 「〈危機は法を破る〉のか？危機管理における 人権制約と権力統制の問題」
7月23日（土） 13：00～14：45	オンライン開催	公開シンポジウム 「運動器疼痛に対する本邦の診療研究体制整 備」
7月23日（土） 14：00～17：00	オンライン開催	公開シンポジウム 「事故による子どもの傷害を予防する—子ど も中心の新たな予防システムの構築へ」
7月26日（火） 13：00～17：00	オンライン開催	公開シンポジウム「誰もが夢を追求できるアバ ター共生社会の実現を目指して」
7月29日（金） 12：30～17：55	日本学術会議講 堂（ハイブリッ ド開催）	学術フォーラム 「国際基礎科学年～持続可能な世界のために」
7月29日（金） 14：00～16：50	オンライン開催	公開シンポジウム「ウクライナ戦争の勃発と 《共通の安全保障》のゆくえ」
7月30日（土） 13：00～15：30	オンライン開催	公開シンポジウム 「高齢者の健康・生活の視点から新型コロナ感 染症対策に求められる老年学の役割と発揮」

7月30日（土） 13:00~17:10	早稲田大学西早 稲田キャンパス 63号館2階 01・ 02 教室（ハイブ リッド開催）	公開シンポジウム 「みんなで考えるカーボンニュートラルと化 学」
-------------------------	---	--

※新型コロナウイルス感染症の等の状況により、開催形態が変更となる可能性がありますので、
学術フォーラム・公開シンポジウム等の参加前には日本学術会議ホームページを御確
認ください。

国難級災害を乗り越えるための レジリエンス確保のあり方

21世紀前半に発生が確実視される超巨大災害を乗り越えるために、関連するさまざまな学術分野の知見を統合し、残された時間の中で何をすべきか、発災後に何をすべきかについて、今期中の提言の検討に向けて、学術の見地から国難級災害を乗り越える俯瞰的な戦略と実行可能な具体的方策を考える。

令和4年

7.7

木曜日

時間 13:30～17:00

開催 ハイブリッド開催

日本学術会議講堂(申込先着順130名)
(東京都港区六本木7-22-34 千代田線乃木坂駅5番出口)

オンライン配信(定員制限なし)

I. フォーラムの主旨説明 (10分)

13:30 林 春男 (日本学術会議連携会員、国立研究開発法人防災科学技術研究所理事)

II. 各パネリストの論点紹介 (各10分)

1 レジリエンスを知る

13:40 山崎 律子 (国立研究開発法人防災科学技術研究所企画部次長、元UNDRRプログラム管理官)

2 どんなことが起きるのか

13:50 ① 国難級災害:南海トラフ地震・首都直下地震・富士山噴火に関する最新知見

山岡 耕春 (日本学術会議連携会員、名古屋大学環境学研究所教授)

14:00 ② 国難級災害の歴史:安政の南海トラフ地震・江戸地震が与えた影響

杉森 玲子 (東京大学史料編纂所教授)

3 どんな備えがなされているのか～ハードとソフトでの維持からスマートへ～

14:10 ① インフラの高度化:ハードインフラのサービス機能の維持

多々納 裕一 (日本学術会議連携会員、京都大学防災研究所社会防災研究部門教授)

14:20 ② 分野を超えた知の統合によるスマート社会の実現

大西 隆 (日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授)

休憩10分

4 国難級災害を乗り越えるとはどんなことか～こわれない仕組みとは何か

14:40 ① ウェルビーイング:ひとりひとりがこわれない

江川 新一 (東北大学災害科学国際研究所教授)

14:50 ② 自律分散協調社会:社会のあり方を変える

小池 俊雄 (日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人土本研究水災害・リスクマネジメント国際センター(ICCHARM)センター長、
東京大学名誉教授、政策研究大学院大学連携教授)

15:00 ③ プラネタリーヘルス:地球を守ってヒトを守る

渡辺 知保 (日本学術会議連携会員、長崎大学学長特別補佐(プラネタリー・ヘルス担当)、大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科教授)

5 そのために何をすべきか～柔軟さとしなやかさ～

15:10 ① Transformative Capacity:本業を通じた社会課題の解決

三浦 仁美 (積水化学工業(株)ESG経営推進部 担当部長)

15:20 ② Transnational Resilience:コロナに学ぶ

廣木 謙三 (政策研究大学院大学教授)

休憩10分

III. パネルディスカッション(参加者との質疑応答含む) (80分)

15:40 モデレータ:寶 馨 (日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授、京都大学防災研究所 特任教授)

申込み

現地参加の定員は130名(申込先着順)です。定員超過の際はオンラインとなります。オンライン参加の定員制限はありません。
いずれも右記URLより申込み下さい。 <https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0067.html>

問合せ

日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当 電話:03-3403-6295
防災科学技術研究所 防災減災連携研究ハブ事務局 メール: info-jhop@bosai.go.jp



生きる、を支える科学技術



公開シンポジウム 「地球の未来を切り拓く—育種学の役割—」

日時

第1回 2022年7月7日(木) 15:00~17:00

会場

オンライン開催

会費

無料

対象

育種学や農学に関心のある方
(産官学関係者、大学院生、
大学生、高校生、一般)

15:00
開会の挨拶及び
趣旨の説明

経塚 淳子 (日本学術会議第二部会員、東北大学大学院生命科学研究科教授)
加藤 鎌司 (一般社団法人・日本育種学会会長、岡山大学大学院環境生命科学研究科教授)

15:10
第1セッション
講演会

総合司会：最相 大輔 (岡山大学資源植物科学研究所准教授)
「国際社会の中での日本農業：国連食糧農業機関 (FAO)、
国際貿易機関 (WTO)、生物多様性条約 (CBD) での議論を俯瞰して」
八木 信行 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

16:00
休憩

16:10
第2セッション
パネルディスカッション

総合司会：佐藤 豊 (日本学術会議連携会員、
大学共同利用機関情報・システム研究機構国立遺伝学研究所教授)
八木 信行 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)
磯部 祥子 (かずさDNA研究所先端研究開発部室長)
最相 大輔 (岡山大学資源植物科学研究所准教授)
辻本 壽 (日本学術会議連携会員、鳥取大学乾燥地研究センター教授)
内藤 健 (農業・食品産業技術総合研究機構、遺伝資源研究センター上級研究員)
吉田 薫 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授)

16:50
閉会の挨拶

堤 伸浩 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

登録サイト

https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_CN0M38LSQlyLgoBXlx9BTA

* 登録完了後、webinar視聴案内のメールが届きます。



主催：日本学術会議農学委員会育種学分科会
共催：一般社団法人・日本育種学会

・お問い合わせ：佐藤 豊 (大学共同利用機関情報・システム研究機構国立遺伝学研究所) yusato@nig.ac.jp

環境教育・環境研究を 通じた地域貢献

令和4年度から始まった中期目標・中期計画では、国立大学には従来の使命に加え、高度にレジリエントで持続可能な社会構築への貢献、デジタル技術を駆使した教育・研究・社会貢献の機能強化、地方創生の中核としての役割の強化等、より一層の社会貢献への責務が求められています。信州大学では、信州の豊かな自然環境に囲まれた立地という好条件に恵まれ、多くの教員・研究者が環境教育・環境研究に取り組んでおり、また、大学の地域貢献度調査(※)においては常に上位にランキングする等、地域貢献を大学の理念として掲げ、日々活動しています。2030年のSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向け、大学の教育・研究が、地域の発展にどのように貢献できるかのヒントとして、信州大学が環境教育・環境研究を通じて行っている地域貢献の活動についてご紹介します。

※大学の地域貢献度に関する全国調査(日本経済新聞社)

信州大学 松本市旭
3-1-1

7/8 令和4年
13:00▶16:00 金

- 13:00▶13:10 ● 開会挨拶 信州大学長 中村 宗一郎
- 13:10▶13:20 ● 日本学術会議副会長挨拶 日本学術会議副会長 高村 ゆかり
- 13:20▶13:30 ● 主催者挨拶
日本学術会議中部地区会議代表幹事 池田 素子
(日本学術会議第二部会員、名古屋大学大学院生命農学研究科教授)
- 13:30▶13:40 ● 科学者との懇談会活動報告 中部地区科学者懇談会幹事長 松田 正久
- 13:40▶15:55 ● 活断層地震研究を地域に還元する
学術講演会 信州大学教育学部教授 廣内 大助
DNA解析から紐解く信州の生物多様性
信州大学理学部教授 東城 幸治
- 16:00 ● 閉会挨拶
司会 日本学術会議中部地区会議運営協議会委員 中山 淳
(日本学術会議連携会員、信州大学医学部教授)

参加費無料 どなたでも
参加できます

【お問い合わせ】

日本学術会議中部地区会議事務局(名古屋大学研究協力部研究企画課内)

TEL: 052-789-2039 FAX: 052-789-2041

信州大学総務部総務課

TEL: 0263-37-2112 FAX: 0263-36-6769

<https://www.scj.go.jp/ja/area/index.html>

オンライン開催

【参加申込方法】

参加を希望される方は7/1(金)までに下記URLまたはQRコードより事前申込みをお願いいたします。定員になり次第、事前申込みの受付は終了いたします。



<https://forms.gle/kTpRZFUxM1ixa7Az9>

「医工学シンポジウム2022」 (我が国の医工学—現在と未来—)

2022.7.23^{Sat}

オンライン開催(参加費無料)

我が国の医療機器や人工臓器に関する研究技術開発は世界的なレベルにあるが、実用化に至り世界中で利用されているものはそれほど多くはない。エレクトロニクス技術や機械・材料技術に加え、最新のナノおよびバイオテクノロジー技術とIT技術を組み合わせた新分野の発展も期待されている。生体医工学は医療機器や人工臓器の開発を目指す独自の研究領域であり、医学系と工学系との密接な連携研究が強く求められるフィールドである。このような生体医工学の特性を踏まえ、生体医工学の教育・研究体制の現状と課題、研究開発から実用化に至る過程での課題と方策、国内外関連学協会等の動向、情報交換、連携推進の方策、などに関し、幅広く学術的に検討することを目的とし、本シンポジウムを開催する。なお、本シンポジウムは今後定期的な開催を予定する。

日時 令和4年7月23日(土)

10:00 ~ 16:50

形式 オンライン開催(zoom)

※参加方法は申し込み後に
連絡いたします



申し込みは
こちら

7月15日締切
先着300名

<https://forms.gle/KyWgtbtHw6fMmXC19>

問い合わせ先

但野 茂 (e-mail: tadano@wb3.so-net.ne.jp)

埴 隆夫 (TEL: 03-5280-8006 / e-mail: hanawa.met@tmd.ac.jp)

主催: 日本学術会議機械工学委員会・基礎医学委員会・電気電子工学委員会・材料工学委員会合同生体医工学分科会、
材料工学委員会バイオマテリアル分科会、国立大学法人東京医科歯科大学

共催: 一般社団法人日本人工臓器学会、一般社団法人日本機械学会、日本バイオマテリアル学会、一般社団法人日本歯科理工学会、
公益社団法人日本金属学会、公益社団法人日本セラミックス協会、一般社団法人繊維学会、公益社団法人高分子学会、
一般社団法人日本MRS、日本再生医療学会、日本DDS学会、一般社団法人日本骨代謝学会、ライフサポート学会、
一般社団法人電子情報通信学会

後援・協賛: 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)、独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)、精密工学会、公益
社団法人計測自動制御学会、一般社団法人日本医工ものづくりコモンズ、NPO法人医工連携推進機構、日本歯科器械工業協同組
合



開催次第

総合進行役 **石川拓司**(日本学術会議連携会員、東北大学大学院医工学研究科教授)

10:00-10:05 会長挨拶 **梶田隆章**(日本学術会議会長、東京大学宇宙線研究所卓越教授)

10:05-10:10 趣旨説明 **但野茂**(日本学術会議第三部会員、生体医工学分科会委員長、北海道大学客員教授・名誉教授)

司会 **但野茂**(同上)

10:10-10:55 特別講演 **我が国の健康・医療分野における研究開発の振興方策について**
三島良直(国立研究開発法人日本医療研究開発機構理事長、元東京工業大学学長)

座長 **大島まり**(日本学術会議第三部会員、東京大学大学院情報学環/生産技術研究所教授)

10:55-11:55 セッション1(医工学教育)

医療機器創生のための総合的教育

西條芳文(日本学術会議連携会員、東北大学大学院医工学研究科教授)

新しい医療機器創成に向けた医工融合教育

向井敏司(神戸大学未来医工学研究開発センターセンター長)

11:55-13:10 昼食休憩(合同分科会開催)

座長 **岸田晶夫**(日本学術会議連携会員、東京医科歯科大学教授)

13:10-14:40 セッション2(医工産学連携)

異分野融合医工学研究の可能性と課題

圓山重直(日本学術会議連携会員、八戸工業高等専門学校校長)

針なし気泡注射器における医工産学官連携の取組みと課題

山西陽子(日本学術会議連携会員、九州大学大学院工学研究院教授)

バイオマテリアル研究を基盤とした医工連携、産学連携による実用化事例

石原一彦(日本学術会議連携会員、大阪大学大学院工学研究科特任教授)

座長 **和田成生**(日本学術会議連携会員、大阪大学大学院基礎工学研究科教授)

14:40-15:40 セッション3(学協会連携)

本学会の若手育成に向けた活動の紹介

守本祐司(日本生体医工学会理事長、防衛医科大学教授)

研究成果実用化のための異分野連携の重要性とバイオマテリアル学会としての取り組み

山岡哲二(日本学術会議特任連携会員、日本バイオマテリアル学会会長、国立循環器病センター生体医工学部長)

15:40-16:40 総合討論 **若手人材・女性研究者育成**

モデレータ: **増澤徹**(日本学術会議連携会員、茨城大学大学院理工学研究科教授)

パネリスト: **石原一彦**(同上)

大矢根綾子(日本学術会議連携会員、産業総合研究所)

田中真美(日本学術会議連携会員、東北大学大学院医工学研究科教授)

山岡哲二(同上)

山西陽子(日本学術会議連携会員、九州大学大学院工学研究院教授)

小野寺陽一(独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)医療機器調査・基準部部長)

16:40-16:50 閉会の挨拶

塙隆夫(日本学術会議第三部会員、バイオマテリアル分科会委員長、

東京医科歯科大学生体材料工学研究所教授、神戸大学未来医工学研究開発センター特命教授)

「危機は法を破る」のか？

—危機管理における人権制約と権力統制の問題

2022年7月23日（土） オンライン開催(ZOOMウェビナー)
13:00～18:00

参加登録用サイト <https://sites.google.com/view/kiso2022/>

開会挨拶 南野 佳代（日本学術会議会員・京都女子大学法学部教授）

第1部 報告

司会 田口 正樹（日本学術会議連携会員・
東京大学大学院法学政治学研究科教授）

- 井上 達夫（東京大学名誉教授）
「企画趣旨説明」
- 藪本 将典（慶應義塾大学法学部准教授）
「必要は法を持たないNecessitas non habet legem
—1720年マルセイユにおけるフランス王権のペスト禍対応を素材として」
- 毛利 透（京都大学大学院法学研究科教授）
「新型コロナへの対応をめぐる憲法上の議論：ドイツの場合」
- 香西 豊子（佛教大学社会学部教授）
「隠す家族、差し出す家族 —日本の幕末・明治期における
〈予防接種を打たせる論理〉の転回とその帰結」
- 福井 康太（大阪大学大学院法学研究科教授）
「法的規制厳格化は自由を損なうか？—社会的同調圧力依存の問題性」
- 松尾 陽（日本学術会議連携会員・
名古屋大学大学院法学研究科教授）
「監視と自由 —権力による監視と権力に対する監視」
- 市橋 克哉（名古屋経済大学法学部特任教授）
「専門知の自律性の危機とその再生
—学問に対する政策のコントロールと学問の権威主義化のなかで考える」

第2部 総合討論

司会 井上 達夫（東京大学名誉教授）
大西 楠・テア（専修大学法学部教授）

閉会挨拶 亀本 洋（日本学術会議会員・明治大学法学部教授）

参加登録用サイトは、以下のQR
コードからアクセスできます。



参加無料

上記の参加登録用サイトより、
7月19日(火)までに参加登録を
お願いします。

* 定員に達した場合、期限前に申し込み
を終了させていただくことがあります。

主催

・基礎法学系学会連合

日本法社会学会
日本法哲学会
比較法学会
法制史学会
比較家族史学会
民主主義科学者協会法律部会

・日本学術会議法学委員会

連絡先:

基礎法学系学会連合事務局
kisohogaku@gmail.com

運動器疼痛に対する本邦の診療研究体制整備

7/23
(土)

総合司会 中村 雅也【日本学術会議連携会員、慶応義塾大学医学部整形外科教授】

挨拶

13:00 開会の辞
越智 光夫【日本学術会議第2部会員、広島大学学長】13:05 来賓挨拶
(※ 調整中)
来賓挨拶
中島 康晴【日本整形外科学会理事長、九州大学整形外科教室教授】

第1セッション「運動器疼痛の本邦の診療研究体制整備の現状と課題」

◇司会 村井 俊哉【日本学術会議連携会員、京都大学大学院医学研究科精神医学教授】

13:10 『運動器疼痛の本邦の診療研究体制整備の現状と課題』
中村 雅也【日本学術会議連携会員、慶応義塾大学医学部整形外科教授】

第2セッション「運動器疼痛に対する研究の取り組み」

◇司会 関口 美穂【日本学術会議連携会員、福島県立医科大学医学部附属実験動物教授】

13:30 『運動器疼痛に対する研究の取り組み』
小杉 志都子【慶応義塾大学医学部麻酔学准教授】

第3セッション「運動器疼痛の本邦の診療研究体制整備に求められるアクションプラン」

◇司会 紺野 慎一【日本学術会議連携会員、福島県立医科大学医学部整形外科教授】

13:50 『運動器疼痛の本邦の診療研究体制整備に求められるアクションプラン』
住谷 昌彦【日本学術会議連携会員、東京大学医学部附属病院緩和ケア診療部准教授】

総合討論

14:10 ◇司会
中村 雅也【日本学術会議連携会員、慶応義塾大学医学部整形外科教授】
関口 美穂【日本学術会議連携会員、福島県立医科大学医学部附属実験動物教授】
◇コメンテーター
小杉 志都子【慶応義塾大学医学部麻酔学准教授】
住谷 昌彦【日本学術会議連携会員、東京大学医学部附属病院緩和ケア診療部准教授】

挨拶

14:40 閉会の辞
戸山 芳昭【日本学術会議連携会員、一般財団法人国際医学情報センター理事長】

場所:オンライン開催(facebook配信)

参加費無料

<https://www.facebook.com/profile.php?id=10008166534401>

主催:日本学術会議臨床医学委員会慢性疼痛分科会



<< 事前質問メール >>

locomopain2022july@ymail.ne.jp

受付締切: 2022年6月30日

※全ての御質問に対応できないことを事前にご了承ください



日本学会議主催 公開シンポジウム

事故による 子どもの傷害を予防する

— 子ども中心の新たな予防システムの構築へ —

2022 オンライン開催

7.23 土 14:00
17:00

【開催趣旨】

事故による子どもの傷害は多発しており、同じ年齢層の子どもに同じ事故が起こり続けています。すなわち、現在、予防策と考えられているものは機能していません。本シンポジウムでは、主に14歳以下の非意図的な傷害の予防を目的に、今、子どもの傷害に関わっている組織の方々に、子どもの傷害についての現状・対応・課題を述べていただき、それらの実態に対して科学的にどのように取り組み、どうしたら子どもの傷害の発生数を減らすことができるか、どのようなシステムが必要かについて議論します。

第1部

14:00-14:50
傷害予防の現状と課題

第2部

15:00-15:50
データを収集・活用するための学術

第3部

16:00-17:00
【総合討論】 Data to Design
データを成育環境デザインにつなげる現場共創型総合科学の創造

主催：日本学会議臨床医学委員会・心理学・教育学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会

【問い合わせ】 NPO 法人 Safe Kids Japan (e-mail: info@safekidsjapan.org)

公開シンポジウム
「事故による子どもの傷害を予防するー子ども中心の新たな予防システムの構築へ」

司会：太田 由紀枝（セーフキッズジャパン プロジェクトマネージャ）

14：00 開会挨拶

山中 龍宏（日本学術会議特任連携会員、緑園こどもクリニック院長）

14：10-15：00 【第1部：傷害予防の現状と課題】

わが国の子どもの傷害の実態と課題

山中 龍宏（日本学術会議特任連携会員、緑園こどもクリニック院長）

救急搬送におけるデータ収集の課題

阪本 浩司（東京消防庁 防災安全課生活安全係長）

医療機関におけるデータ収集の課題

岸部 峻（東京都立小児総合医療センター救命救急科医員）

学校管理下の事故のデータと課題

森本 晋也（文部科学省 総合教育政策局 安全教育調査官）

子どもの事故予防への行政（自治体）の取り組み

松田 初弘（東京都生活文化スポーツ局 生活安全課 統括課長代理）

子どもの事故予防への行政（国）の取り組み

消費者庁（登壇者調整中）

15：00~16：00 【第2部：データを収集・活用するための学術】

現場で運用可能な傷害情報収集システムの構築

北村 光司（国立研究開発法人産業技術総合研究所情報・人間工学領域主任研究員）

表データを利活用するための AI 技術

相澤 彰子（日本学術会議第三部会員、国立情報学研究所コンテンツ科学研究系教授）

プライバシーを保護したデータ利活用に向けて

宮地 充子（日本学術会議第三部会員、大阪大学大学院工学研究科電気電子情報工学専攻教授）

身体活動増進を介して子どもの事故を減らす学校環境デザイン

伊香賀俊治（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科教授）

子ども・保護者の視点に立つ事故予防の生活デザイン

神吉紀世子（日本学術会議連携会員、京都大学工学系研究科建築学専攻教授）

新たな傷害制御学の創造に向けて

西田 佳史（日本学術会議特任連携会員、国立大学法人東京工業大学教授）

16：00~17：00 【総合討論】

Data to Design: データを成育環境デザインにつなげる現場共創型総合科学の創造

矢口 まゆ（町田市議会議員）

出口貴美子（NPO 法人 Love & Safety おおむら代表）

第1部、第2部講演者

閉会挨拶

西田 佳史（日本学術会議特任連携会員、国立大学法人東京工業大学教授）

誰もが夢を追求できる アバター共生社会の実現を目指して

主催：日本学術会議 情報学委員会 ITの生む諸課題検討分科会

日時

2022年7月26日 (火)
13時00分～17時00分

会場

オンライン開催

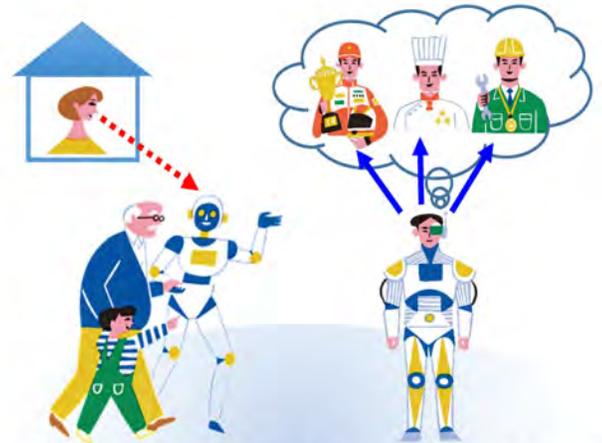
定員：300名、参加費：無料
申込フォーム



<https://forms.gle/z4hmH6B9jWw19pyp9>

後援

国立情報学研究所, 情報通信研究機構,
電子情報通信学会, 情報処理学会 (予定)



その場にいなくても

必要な能力を身にまわって

- 13:00 開会挨拶 東野 輝夫 (日本学術会議連携会員、京都橘大学 副学長／工学部・教授)
- 13:05 JST ムーンショット型研究「人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現」の概要
萩田 紀博 (日本学術会議第三部会員、大阪芸術大学 アートサイエンス学科・教授)
- 13:20 誰もが自在に活躍できるアバター共生社会の実現のための諸課題
石黒 浩 (大阪大学 大学院基礎工学研究科・教授)
新保 史生 (慶應義塾大学 総合政策学部・教授)
- 13:40 身体的共創を生み出すサイバネティック・アバター技術と社会基盤の開発とその諸課題
南澤 孝太 (日本学術会議連携会員、慶應義塾大学 大学院メディアデザイン研究科・教授)
江間 有沙 (東京大学 未来ビジョン研究センター・准教授)
- 14:00 身体的能力と知覚能力の拡張による身体の制約からの解放とその諸課題
金井 良太 (株式会社アラヤ・代表取締役)
駒村 圭吾 (慶應義塾大学 法学部・教授)
- 14:20 (休憩)
- 14:40 我らの社会とその基礎 - 人格・可傷性・コミュニケーション
大屋 雄裕 (慶應義塾大学 法学部・教授)
- 15:10 総合討論
司会：喜連川 優 (日本学術会議連携会員、国立情報学研究所・所長)
パネリスト：
石黒 浩 (大阪大学 大学院基礎工学研究科・教授)
新保 史生 (慶應義塾大学 総合政策学部・教授)
金井 良太 (株式会社アラヤ・代表取締役)
南澤 孝太 (日本学術会議連携会員、慶應義塾大学 大学院メディアデザイン研究科・教授)
大屋 雄裕 (慶應義塾大学 法学部・教授)
藤沢 久美 (株式会社国際社会経済研究所・理事長)
- 16:40 閉会挨拶 土井 美和子 (日本学術会議連携会員、情報通信研究機構・監事)

連絡

連絡先：ITの生む諸課題検討分科会事務局 scj.infoit@gmail.com



日時 令和4年7月29日(金) 12時30分～17時55分

お申し込みはコチラから

開催場所 日本学術会議講堂 (申込先着順)

オンライン配信あり



後援：内閣府、文部科学省、日本経済団体連合会、国立研究開発法人 科学技術振興機構 <https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0110.html>

プログラム

12:30～13:00

挨拶

- ・梶田 隆章
(日本学術会議会長・東京大学宇宙線研究所教授) 趣旨説明
- ・内閣府
- ・篠原 弘道
(日本経済団体連合会副会長・NTT 会長)

- ・文部科学省
- ・塩崎 正晴
(国立研究開発法人科学技術振興機構理事)
- ・小谷 元子
(日本学術会議連携会員・ISC 次期会長)

13:00～14:40

セッション1「基礎科学と私たちの暮らし」

- ・田中 啓二
(日本学術会議連携会員・公益財団法人東京都医学総合研究所理事長)
「基礎研究余話：「役に立たない研究」と「役に立つ研究」
- ・藤田 誠
(東京大学大学院工学系研究科卓越教授)
「持続的社会と科学リテラシー」
- ・長我部 信行
(日立製作所コネクティブインダストリーズ事業統括本部)
「基礎科学とイノベーション」

- ・長井 志江
(東京大学ニューロインテリジェンス国際研究機構特任教授)
「人工知能が拓くインクルーシブ社会」
- ・一ノ瀬 正樹
(日本学術会議連携会員・東京大学名誉教授・武蔵野大学教授)
「科学技術をめぐる事実と規範—推進と抑制のゆらぎ—」

14:50～15:30

総合討論I「発展する社会と基礎科学」

モデレーター：滝 順一
(日本経済新聞編集局総合解説センター編集委員)

コメンテーター：渋谷 健
(シブサワ・アンド・カンパニー代表取締役)
「基礎科学と新しい資本主義」

パネリスト：第一セッション講演者
青木 玲子
(日本学術会議連携会員・公正取引委員会委員)

15:45～17:00

セッション2「科学と市民の共創」

- ・駒井 章治
(東京国際工科大学工科学部教授)
「自省と対話 -- 相互理解のために --」
- ・原 有穂
(Friday for future Japan)
「COP26 で気付いた気候危機の根本的な問題点」

- ・北島 薫
(日本学術会議第二部会員・京都大学農学研究科教授)
「生物多様性と人：里山、奥山、そして地球」
- ・小林 佳世子
(南山大学経済学部准教授)
「共感からみたヒトという生き物の謎と社会の仕組み」

17:10～17:55

総合討論II「科学を私たちの力に」

モデレーター：高橋 真理子
(ジャーナリスト・元朝日新聞科学コーディネーター)

パネリスト：第二セッション講演者、小谷 元子、梶田 隆章

閉会挨拶：野尻 美保子
(日本学術会議第三部会員・「持続的発展のための国際基礎科学年」連絡会議世話人)

公開シンポジウム

「ウクライナ戦争の勃発と《共通の安全保障》のゆくえ」

日時 2022年7月29日（金） 14:00-16:50

開催方法 オンライン開催

主催 日本学術会議政治学委員会国際政治分科会

共催 科学研究費補助金（基盤研究（A）「国際社会における保護・禁止等の範囲をめぐる学際的研究」）

開催趣旨

本シンポジウムは、2022年2月24日のロシアによる侵攻で始まったウクライナ戦争について、なぜ対立が武力紛争化したのか、そしてこれから地球規模の共存の枠組みを再構築できるのかを、国際政治学、国際法、地域研究の観点から議論することを目的とする。

欧州における欧州安全保障協力機構（OSCE）は、特定の国家を排除せず、すべての国家を包摂し、互いに協力することで全体の安全を達成しようとする《共通の安全保障》の理念を体現するものであった。その下で、国内における《多数者による統治》と《少数者の権利》の両立を確認し、少数者の権利保障を理由とする武力による一方的な国境線変更の余地を狭めて各国の領土保全を確かにすることを目指した。今回のロシアによるウクライナへの軍事侵攻は、この共存の枠組みを大きく揺るがすものであった。本シンポジウムでは、（1）プーチン政権による武力行使の法的根拠、（2）旧ソ連圏における分離紛争の多様性、（3）共通安全保障と集団防衛との関係、及び（4）今回の戦争の「限定性」といった問題を設定して、ウクライナ戦争を学際的に議論し、今後の展望を示したい。

式次第

14:00-14:05	開会あいさつ 鈴木 基史（日本学術会議第一部会員、京都大学大学院法学研究科教授）
14:05-14:10	趣旨説明 大芝 亮（日本学術会議連携会員、広島市立大学広島平和研究所長）
14:10-14:30	報告「武力行使の法的根拠の評価」 森 肇志（東京大学大学院法学政治学研究科教授）
14:30-14:50	報告「旧ソ連圏の分離紛争の比較——非武装地帯の維持と和平交渉のフォーマット」 松里 公孝（東京大学大学院法学政治学研究科教授）
14:50-15:10	報告「OSCE 安全保障体制と移行期正義」 吉川 元（広島市立大学広島平和研究所特任教授）
15:10-15:30	報告「残虐な限定戦争」 石田 淳（日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科教授）
15:30-15:40	休憩
15:40-16:00	指定討論 久保 慶一（早稲田大学政治経済学術院教授） 羽場久美子（日本学術会議連携会員、青山学院大学名誉教授）
16:00-16:45	総合討論・質疑応答
16:45-16:50	総括・閉会挨拶 大芝 亮（日本学術会議連携会員、広島市立大学広島平和研究所長）

総合司会 酒井 啓子（日本学術会議連携会員、千葉大学大学院社会科学研究院教授）

問い合わせ先 石田 淳（ishida@waka.c.u-tokyo.ac.jp）

申し込みフォーム <https://docs.google.com/forms/d/1D0U9CoBVbLoh1rdu7GSOFiFDJIc8cvLv0hnhWyJnGY/edit>



参加無料（先着 500 名）



公開シンポジウム

主催

日本学術会議
健康・生活科学委員会高齢者の健康分科会
臨床医学委員会 老化分科会

高齢者の健康・生活の視点から 新型コロナウイルス感染症対策に求められる 老年学の役割と発揮



日時：令和4年(2022年)7月30日(土)13:00~15:30
場所：オンラインZoom開催(定員800名)とYouTube配信
無料&どなたでもご参加いただけます。



次第

総司会 田高 悦子(北海道大学大学院保健科学研究院教授※)
委員長挨拶 住居 広士(県立広島大学大学院教授※)
座長 荒井 秀典(国立長寿医療研究センター理事長※)
安村 誠司(福島県立医科大学 理事兼副学長※)

シンポジスト

- 1)「臨床医学系学術の役割と発揮 —コロナフレイル及び諸課題の再考—」
飯島 勝矢(東京大学高齢社会総合研究機構教授※)
 - 2)「健康・生活科学系学術の役割と発揮 —生活機能低下リスクとその予防—」
玉腰 暁子(北海道大学大学院医学研究院教授※)
 - 3)「社会福祉学系学術の役割と発揮—これからの高齢者健康福祉政策の方向と対応システム—」
野口 定久(佐久大学人間福祉学部長※)
 - 4)「建築工学系学術の役割と発揮—フレイル・感染症予防から見た住宅の課題と対策—」
伊香賀 俊治(慶應義塾大学システムデザイン工学科教授※)
講師・コメンテーター 鷲見 学(厚生労働省医政局地域医療計画課長)
- 閉会挨拶 須田木綿子(東洋大学社会学部教授※)
日本学術会議会員高齢者の健康分科会委員(会員※・連携会員※)

お申込方法

1. お申込はオンラインフォームからお願いします。(2022年7月20日締め切り)
右のQRコードからもアクセスできます。

<https://forms.gle/obQCXwVQHwxUqTjk8>



2. お申込み後、後日、オンライン会議のURLをメールにてお送りします。
メールが届かない場合、お問合せ先 jp.carework@gmail.com までお問合せください。

後援：一般社団法人日本老年医学会、日本老年社会学会、一般社団法人日本老年看護学会、一般社団法人日本建築学会、一般社団法人日本社会福祉学会、日本保健福祉学会、日本介護福祉学会(以上、予定)

日本学術会議シンポジウム 「みんなで考えるカーボンニュートラルと化学」



2020年10月に日本政府によって2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにするカーボンニュートラルが宣言され、その実現に向けた取組みが加速しています。化学製品は生活でも産業でも不可欠となっていますが、一方でその製造を担う化学産業は温室効果ガスを多く排出しています。カーボンニュートラルを達成し地球温暖化を防止するためには、温室効果ガスを排出せずに炭素等の物質を循環する産業と社会システムの実現が不可欠です。

カーボンニュートラル達成に向けた化学技術の責務と挑戦を産学の化学の専門家が講演し、続けて地球温暖化防止の実現に向けた多様な立場の人々の役割についてリスク管理の専門家が講演します。また、全員参加型のグループ討議も実施、次世代を担う若者をはじめ多様な立場の皆様と、2050年にありたい社会の姿とその実現に向けた我々の役割を多面的に議論し、一緒に考えます。

主催：日本学術会議 化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同 触媒化学・化学工学分科会/環境学委員会 環境科学分科会

共催：公益社団法人化学工学会、早稲田大学理工学術院総合研究所

後援(予定)：公益社団法人日本化学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本鉄鋼協会、公益社団法人石油学会、一般社団法人触媒学会、一般社団法人廃棄物資源循環学会、一般社団法人資源・素材学会、公益社団法人日本伝熱学会、一般社団法人日本エネルギー学会、一般社団法人エネルギー・資源学会、一般社団法人環境資源工学会、日本LCA学会、NPOエコデザイン推進機構、特定非営利活動法人安全工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会、一般社団法人コンビナート連携推進機構

日時： 2022年7月30日(土)13:00~17:10

形式： 現地会場とオンラインのハイブリッド形式

現地会場： 早稲田大学・西早稲田キャンパス 63号館2階01・02教室(定員300名)

オンライン会場： Zoom(定員500名)

参加費無料・要参加登録(先着順、下のURLもしくは右のQRコードよりお願いします)

<https://forms.gle/PDRxpUSZJuBCUWeg6>



13:00-14:20 第一部・講演

開会挨拶

所 千晴(日本学術会議第三部会員、早稲田大学理工学術院/東京大学大学院工学系研究科教授)

講演「物質閉鎖系である地球における適材適所の化学技術」

関根 泰(日本学術会議連携会員、早稲田大学理工学術院教授)

講演「カーボンニュートラル社会の実現に向けた炭素・水素循環技術の開発」

鈴木賢(旭化成株式会社 上席理事 / 研究・開発本部 化学・プロセス研究所 所長)

講演「カーボンニュートラルを実現し、地球温暖化を防ぐために何が必要か？

～社会を構成する行政、企業、市民の役割を考える～

野口 和彦(日本学術会議連携会員、横浜国立大学IASリスク共生社会創造センター客員教授)

14:30-15:30 第二部・全員参加型の議論

グループ討議

15:40-17:00 第三部・総合討論

(司会) 野田 優(日本学術会議連携会員、早稲田大学理工学術院教授)

(コメンテーター) 辻 佳子(日本学術会議連携会員、東京大学環境安全研究センター教授)

関根 泰、鈴木 賢、野口 和彦

各グループからの討議結果の発表

登壇者からのコメント、質疑

閉会挨拶

北川 尚美(日本学術会議第三部会員、東北大学大学院教授)